

ソウやカナムダラ等の陸生植物が勢力を拡大し、ヨシは随分と少なくなり、絶滅の危機に追い込まれている。衰退が進むヨシの群落を最盛期のものに復元しようとする試みと事業が進められている。

- ①ヨシの衰退状況、陸生植物の勢力拡大状況の調査（昭和五十年より）
- ②導水路の設置：淀川本流の水をポンプアップして導水路を通してヨシ原に水を入れる（昭和五十年より）
- ③ヨシ原の地盤を切り下げ、元の地表面の土を戻し、ヨシの根を植える。（平成十一年より）

最後に、ヨシ原の一年を振り返る。

- ・三月上旬 ヨシが芽を出す
- ・五月上旬～中旬 ヨシ刈り
- ・六月～「ヨシ簾」編みづくり
- ・ヨシの葉で「ちまき」「づくり
- ・一月～二月上旬 ヨシ刈り
- ・二月～三月 ヨシ原焼



●お詫びと訂正
 組報八号の一念寺様の報恩講日程ご講師の氏名が間違っておりまして、正しくは能登谷裕師でした。紙面を借りてお詫びいたします。

島上南組
だより

浄土真宗本願寺派
 2019年(平成31年)1月
 第9号
 編集・発行
 高槻市大塚町西證寺内
 島上南組実践運動委員会

✦ 平成の終わりにおもいういこと

島上南組組長 尾崎貞良

新年あけましておめでとございます。

和暦平成三十一年、西暦二〇一九年が始まりました。今年には天皇が存命の内に退位し、皇太子に皇位継承して新天皇が誕生する平成最後の年です。

今から新元号が何になるかを当てるクイズがあったり新元号を想像して商標登録する人がいたりします。

和暦は日本の年号（元号）で皇位の継承があった場合にのみ改定される天皇暦です。日本はこの制度をもつ世界で唯一の国です。明治政府は一八七二年（明治五年）日本書紀に書かれた神武天皇即位の年とされる西暦紀元前六六〇年を皇紀元年に決めました。紀元節として二月十一日を

✦ 宝池の荘厳

西應寺 住職 寺本親吾

池中蓮華 大如車輪 青色青光 黄色黄光 赤色赤光
 白色白光 微妙香潔 舍利弗 極樂国土 成就如是 功德莊嚴

池のなかの蓮華は、大きさ車輪のごとし。青色には青光、黄色には黄光、赤色には赤光、白色には白光ありて、微妙香潔なり。舍利弗、極樂国土には、かくのごときの功德莊嚴を成就せり。

（出典：瓜生津隆真「聖典セミナー浄土三部経Ⅲ」）



阿弥陀経には「極樂浄土は池の中に蓮の花があり、その大きさは車の輪くらいあって、青、黄、赤、白の色をした花がそれぞれの色の光を放ち、どの花も微妙香潔・美しくその香りも高く清らかである」と描かれ、「舍利弗よ、かの極樂世界はこのようなすぐれた美しい姿をそなえているのである」と続きます。如来の世界である極樂浄土においては、いかなるものも青いものも赤いものもそれぞれが、そのままの姿においてそれぞれの特色を生かしつつ、みんなともに照らされています。その安穩で平等で永遠な真実の世界こそ私たちが心から願う求めなければならない世界であってその世界に念仏往生すべきことが述べられています。

「青色青光、微妙香潔」は現実の世界でも通用する言葉だと思えます。今年には拙寺本堂新築二十五周年になります。当時西應寺のご門徒には六十代後半の、大局観と調整力を兼ね備えた責任役員、総代さんらがおられました。新築計画はその方々を中心に進められました。各人の能力や特質を発揮しつづ互いに映えあい、全体として調和がとれてスムーズに計画が進行し、落慶の日を迎えることができました。往時を偲び改めて「青色青光、微妙香潔」への思いを深くしました。希わくは組内寺院並びにご門徒方、この経文のごとくそれぞれ特色を生かしつつ、照らしあい、映え合って光り輝き、法義いよいよ盛んならんことを！



祝日とし、天皇を中心とした国家支配の正当性を内外に誇示し軍国主義の宣伝の役割を果たしました。

戦後は主権在民の日本国憲法の理念にふさわしくないと、一九四八年（昭和二十三年）の「国民の祝日法」制定に際し廃止されましたが、一九六七年（昭和四十二年）二月に「建国記念の日」として復活しています。

西暦は西洋の年号で、イエス・キリストの誕生に始まるキリスト暦です。キリストの誕生日は説が色々あり曖昧ですが現在では国際的に使われる暦となっています。一方で仏教徒には仏暦があり、ミャンマー、スリランカなどの仏教国では、お釈迦様入滅の年、西暦紀元前五四四年を紀元とする仏暦（仏滅紀元暦）が使われています。今年には仏暦二五六三年になるそうです。

今の日本では、西暦と和暦を併記し、キリストが先で天皇が後。年号にお釈迦様の登場を待望するのは私だけでしょうか。皇位継承・元号改定の年を迎えて、仏教徒として考えさせられたことでした。

今年もよろしくお願い申し上げます。



合掌

◆ 仏教婦人会より

仏教婦人会会長

辻井 順子

お蔭様で、昨年六月に仏教婦人会五十周年、若婦人部十周年記念大会を無事に終えることが出来ました。有難く感謝致しております。

今年度は、九月十三日に善立寺様の本堂をお借りして、恵信尼様七百五十回忌法要・島上南組物故者追悼法要をご遺族様、仏教婦人会員の皆様八十二名の参加者でお勤めさせて頂くことが出来ました。恵信尼様の法要は、各単位仏教婦人会代表による献灯、献花、献香が始まり、恵信尼様のエピソードの朗読を組み入れた音楽法要で厳かに勤めさせて頂きました。



恵信尼様の絵像をお飾りさせていただいた本堂に仏讃歌コーラスの皆様の歌声が響き渡りました。恵信尼様のみ徳をご出席下さった皆様とご一緒にお喜びさせて頂きました。

また、三年に一度行われます物故者追悼法要は、組長様を初め、各寺院のご住職様により厳粛な法要をお勤めの後、清岡隆文先生の「ご恩を大切に」のご法話をご聴聞させて頂きました。仏様の尊いご縁を頂いたと思っています。このご縁は、故人となられた元会員様のお導きであったと味あわせて頂きました。島上南組仏教婦人会を育て、守ってこられた方々の思いを大切に、これからも会員の皆様のご支援、ご協力を頂きながら益々発展させていきたいと思っております。

お陰で、和やかな雰囲気の中、小物入れの籠が完成しました。出来上がった作品を手にする心がなごみ、「何に使おうか」と思いをはせながら研修が終わりました。次回研修会は教区・組で取り組みの始まった実践運動のテーマ「子どもの貧困」について学習したいと思っております。



◆ 総代会より

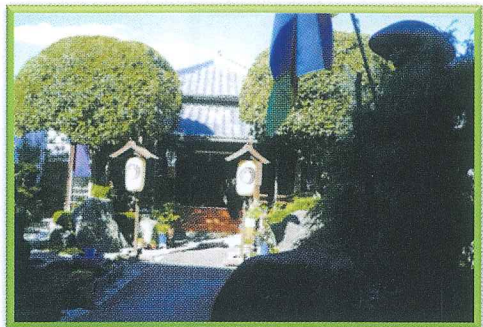
総代会会長 玉村圭一

総代会研修会は年三回、テーマを決めて実施しています。

現在のテーマは浄土真宗必携「み教えと歩む」で七月二十六日西応寺、十月二十六日善立寺で実施し各回とも約四十名の参加でした。また聞法会を九月十九日に正覚寺で実施しました。

講師に千里寺住職、竹田達城師を招き「門徒と寺院の信頼関係」について講演していただきました。参加者は三十九名でした。

また組内寺院報恩講参拝を十一月四日から十二月二十三日に組内十七ヶ寺を五班に分けて各寺の総代が毎年順番に五ヶ寺の報恩講にお参りし、他寺の総代・門信徒との交流を深めるようにしています。写真は法善寺のもので総代十名が参拝しました。



◆ 若婦人会より

若婦人部 高島和子

当初六月に予定していました若婦人部第一回研修会は大坂北部地震、西日本豪雨に見舞われ延期・中止となりましたが十月十九日に改めて圓正寺で第一回研修会を開催することができました。

良い天気にも恵まれ四十五名もの参加があり役員一同うれい一日となりました。本願寺社会部の内本隆宏先生をお迎えし重誓偈・讃仏偈・作法の練習をしました。

また短時間ではありましたが質問のコーナーでは気さくな内本先生のお人柄でたくさん質問があり、そのお答えは為になったと多くの声をいただきました。



新役員メンバーでの初めての研修会でもあり至らぬ点も多くありましたがこれからも反省を重ねながら成長して行けたらと思います。

◆ 寺族婦人会より

法善寺 辻本裕子

七月二十五日寺族婦人会第一回研修会は「クラフト手芸講習会」として法善寺で開催しました。

六月十八日の大坂北部地震で寺院、ご門徒様をはじめ多数被害にあわれた状況の中での研修会となり参加者は八名でした。

そのような状況の中で、心に痛みを感じつつも講師の中本雅子先生のお話と手先の細やかさに引き込まれながらの手芸制作でした。



◆ 地域探訪

〜 鵜殿のヨシ原に想う〜

圓正寺前住職 内本隆讓

鵜殿のヨシ原とは、淀川右岸の高槻の東部、道鶴町から上牧町に及ぶ七十五ヘクタールの群落をいう。私がこうして鵜殿のヨシ原について島上南組の皆さまに向って情報を発信する機会を与えていただき、誠に有難いことであると思う。

さて、ヨシは、漢字で書くと「葦」(アシ)ともいい、イネ科の植物で高さ4m〜5mにもなる高茎草本の一種。古くは万葉集の歌人にも好んで詠まれた難波の風物で大阪を代表する植物である。鵜殿のヨシは、昭和五十年、環境庁から「自然度10」の評価を受け、又建設省からは「淀川河川公園」の基本計画で「自然保護地区」の指定を受ける。

ここ鵜殿に群生するヨシは、古くから「鵜殿のヨシ」と呼ばれ、全国的にも有名。その茎は太く、弾力性に富むところから数年前、ユネスコの世界文化遺産となった日本雅楽の楽器たる「ひちりき」の吹き口(リード)として最適であり、天下一品といわれ、第二次世界大戦の終戦時までは、宮内省に毎年百本が精選され、献上されていた。

文献的には「津の国鵜野の芦を重宝とす(雅遊漫録)」とあり、この木管楽器「ひちりき」の吹き口に用いたもので、烏丸家に毎年献上した(日本歴史地名大系第二十八巻)という。

このヨシ原には、実に多くの動植物が生活している。野鳥(カラス、スズメ、ウグイス、トンビなど三十種類以上)。植物(ヨシ、オオヨシ、オギ、その他草花等三八〇種以上)。動物(イタチ、ヘビなど十種類以上)。

これら生物のほとんどは、ヨシ原で生まれ、ヨシ原で育ち、ヨシ原で生きていく。ヨシは水生の植物なので、昭和四十年代から始まったダムを中心とする淀川河川改修工事による、本川水位の低下、冠水回数減少、地表面の乾燥化によりセイタカアワダチ